



『誠実・創造・挑戦』をモットーに
地球環境保全と豊かで人に優しい社会環境の実現に貢献します

せせらぎ 38号



表紙：遠野　ふるさと村（岩手県遠野市）
撮影：荻窪 照彦 さん

Contents

新年のご挨拶	2
新生東亜DKKアナリティカのご紹介	3
クラウドを利用した水質管理システムのご紹介	4,5
販売事例のご紹介	
新型純水用pH検出器：HC-G65型	6
HACH試薬アプリケーションのご紹介	7
『計測展2015 TOKYO』に出展	7
生産性向上設備投資促進税制について	8

クラウドを利用した 水質管理システムのご紹介

国内営業本部 東日本営業部 仙台営業所
西日本営業部 広島営業所

皆様の周りでも「クラウド」という言葉を耳にする機会があると思います。コンピューター関連用語で、仕組みをご存じの方も多いのではないでしょうか。

データやアプリケーションを社外にあるサーバーやデータセンターに置き、インターネットなどのネットワークを経由して利用することで、一般にはクラウドコンピューティングサービスと呼ばれています。実際に処理を行うコンピューターやサーバーはクラウドサービスを提供する企業が準備し管理も委託することでユーザーの負荷が軽減されるというメリットがあります。

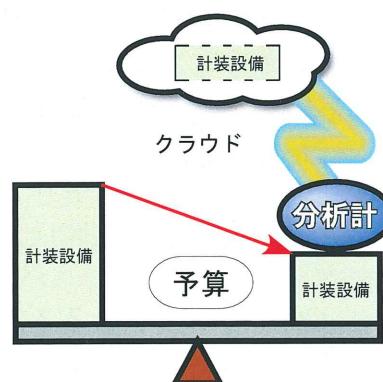
今回、このクラウドを利用した上下水道の監視システムを開発している小松電機産業株式会社（本社：島根県）の総合水管理システム「やくも水神」に、当社製残留塩素計CWM-160E型を組み込み、塩素濃度の監視に活用いただくこととなりましたので、新しいアプリケーションモデルとしてご紹介いたします。

福島県の某自治体様では、遠隔地にある水道施設の管理を、職員の方が実際に現場に出向いて行っておりましたが、管轄区域が広く大きな負荷となっていました。そのため、

「やくも水神」を導入され、クラウド上で各水道施設の状況が把握できる環境を構築されておりました。しかし、システムの打ち合わせを進める中で、重要な管理項目である残留塩素濃度についても常時監視をしたいとのご要望があり、残留塩素計をクラウドシステムに組み入れることになりました。

従来は予算の問題もあり、分析計の設置は難しかったのですが、「やくも水神」を導入し、仮想の計装盤をクラウド上に置くことにより、現場に分析計と通信ボックスを設置できる予算が確保できるようになりました。お客様にとりましても、残留塩素の濃度が常時モニターできることは管理上の大きな進展となりました。

また、この他にもクラウドシステムを導入することによる、様々なメリットが考えられます。



CWM-160E 型



MWB4-72 型

(1) システム全体の管理が容易となる

残留塩素を例にすると、塩素注入から管末までの濃度モニターがクラウド上で行えることになり、配水系統のトレースが容易になります。また、インターネットに接続できれば、パソコンやスマートフォン、タブレット端末からでも状況を把握することができます。

(2) 欠測のリスク管理ができる

常時監視により、分析計の状況が把握しやすくなります。欠測となる前に技術サービス員を派遣できれば、施設の安定した運用につながり、緊急のサービスコールも減らすことができます。

(3) 気象条件などの影響を受けにくい

施設が山間部などにある場合、降雪や大雨などの気象条件によっては現場での作業が難しくなることが懸念されます。クラウドであれば実際に現地に行かなくても状態が把握でき、対応することが可能となります。

このような利点を持つクラウドシステムは、今後も各自治体で導入が進むと思われます。特に簡易水道や、農業集落排水、漁業集落排水など、集中管理が難しい小規模な設備に有效で、新たに分析計を採用いただく機会になるものと期待しております。

皆様のお客様で、施設の更新のお話がありましたら、是非ご紹介いただきますようお願い申し上げます。

今回ご採用いただきましたクラウドシステムにつきましては、「やくも水神」ホームページをご参照下さい。

<https://www.komatsuelec.co.jp/suishin/index.html>



装置組込み例